

2018年度（平成30年度）

事業報告書



目 次

2018 年度 事業計画の方針・重点事業	3

公益Ⅰ. 環境教育事業	4
1. 清泉寮やまねミュージアム	
2. フォレスターズ・スクール	
3. ～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター (指定管理事業)	
4. 環境省日光国立公園「那須平成の森」運営管理業務	
5. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託	
6. 環境研究所	
7. 地域における環境教育事業	
公益Ⅱ. 酪農事業	8
1. 生産農場として	
2. 教育農場として	
3. 実験農場として	
公益Ⅲ. 研修交流事業	10
1. 清泉寮	
2. 自然学校	
3. ポール・ラッシュ記念館	
公益Ⅳ. 国際交流・地域連携事業	13
1. 国際交流事業	
①国際交流事業	
1. 地域連携事業	
①ポール・ラッシュ祭～八ヶ岳カンティフェア～2017 の開催	
②地域連携業務	
公益Ⅴ. 保育事業	15
1. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続	
2. 自然のリズムを大切にした食事(給食)の推進	
3. 保育の質の向上	
4. 園舎内及び周辺環境整備	
5. 保護者や地域の方々との協働	
6. 卒園児のバックアップ	
7. 自然学校及び環境教育事業部との協働	
8. 視察・研修の受け入れ	

収益Ⅰ. 製販事業	16
1. 収支動向	
2. 通常業務	
3. 重点業務	
4. 通常業務	
5. 出張販売	
収益Ⅱ. ホテル事業	19
1. 清泉寮	
本部（管理部門）	20
企画	
1. 企画関連業務	
2. 広報業務	
3. 募金の管理業務	
総務	
1. 職員教育訓練業務	

2018 年度事業計画の方針・重点項目

公益事業に係る中長期計画に基づき、2018 年度事業計画を検討・実施します。

■公益事業アクションプラン

1. 教育機能の強化：

キープ協会全体を学校と捉えて、世代や立場を超えた人々のための学びの場を創出します。

2. 一番美しい牧場プロジェクト：

景観やお客様に配慮した設備・案内看板類を充実させます。

3. 環境保全型運営：

キープ協会全体の廃棄物量を削減します

【収益事業重点項目】

1. お客様を迎える体制整備：

清泉寮ジャージーハット建替え等、より多くのお客様を受け入れるための施設整備と利便性の向上に取り組みます。

2. 収益力強化：

各事業部の営業力を強化し、効率的な事業運営を目指します。

3. 人材育成強化：

社宅を整備すると共に職員教育・研修や人事制度の見直し、職員が働きやすい職場環境作りに取り組みます。

公益 I . 環境教育事業

子どもからシニア世代までを対象とした「教育」とヤマネの総合的な「研究」を両輪として、また市民・学校・企業・行政など多様な主体との協働を通して、多様な環境教育事業を展開した

1. 清泉寮やまねミュージアム

(1)清泉寮やまねミュージアムの役割

ヤマネの総合的な研究のさらなる推進、ヤマネ研究者とのネットワーク構築、ヤマネ保護と森林生物多様性保全の提案、環境教育・環境保全策の普及

(2) 2018 年度の重点目標

清里・国内外での調査研究強化、得られた研究成果の発信
(論文発表・学会発表・館内展示)

(3)2018 年度の事業実績

- ①ヤマネの総合的な研究の実施 (国内外)
- ②県内外における環境影響評価に関する調査業務 請負
- ③研究成果を活かした環境教育プログラムの研究開発と実践
- ④「やまねミュージアム」の管理運営・ヤマネに関する環境教育の実施
 - 1: 展示内容の更新
 - 2: 日本哺乳類学会にて、やまねミュージアムでの展示における教育的効果について発表
 - 3: 清里のヤマネ研究が 30 周年を迎え、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターを会場に研究成果の発表する記念イベントの実施
- ⑤樹上性動物保護の具体策「アニマルパスウェイ(AP)」の普及 (一般社団法人 AP と野生生物の会 構成員としての活動)
 - 1: 道路生態研究会のヤマネブリッジとアニマルパスウェイの見学会の実施
 - 2: 北杜市における新たなアニマルパスウェイ建設のための検討会実施

(4)開館日数、入館者等の実績

表 1 : 2018 年度やまねミュージアム開館日数・入館者数等の実績

	2018 年度	2017 年度	増減/昨年比
年間開館日数	289	288	1 (※時間限定 臨時開館含む)
入館者数	18,026	20,385	▲2359/88%
1 日平均入館者数	62.3	70.8	▲8.5/88%
利用団体数	62	50	12/124%
団体利用者数	2,232	2,332	▲100/96%

※4/20 より入館料改訂 (320 円→420 円) の影響有

2. フォレスターズ・スクール

(1) フォレスターズ・スクールの役割

総合的な環境教育の推進、環境教育プログラムの提供および研究・開発、環境教育ネットワークの支援、「インタープリター」の役割の普及

(2) 2018年度の重点目標

1. 宿泊団体および立寄り団体への営業
2. 主催事業の広報の強化
3. リスクマネジメントの強化と徹底

(3) 主催事業

「実験」「協働」「プログラム開発」という位置づけの下、以下のプログラムを実施した。(表2参照)

表2：2018年主催事業の実績

	2018年度		2017年度	
	回数	参加者数	回数	参加者数
宿泊型環境教育プログラム	12	302	13	335
日帰り型環境教育プログラム	25	501	40	485

(4) 受託事業

学校・企業・省庁・自治体などから受託事業を受入れた。(表3参照)

表3：2018年度受託事業の実績

区分	対象	主な利用団体
清里でのプログラム	学校関係	立教学院、立教女学院、聖心女子学院、山梨学院短期大学、山梨県内外小中学校、北杜市立甲陵高等学校
	行政関係	北杜市
	一般	日本環境教育フォーラム、やまなし環境財団
出張プログラム	行政関係	群馬県、山梨県、北杜市、韮崎市、青少年教育振興機構、青年海外協力協会
	一般	サントリー、電源開発、中部電力、さっぽろ青少年女性協会
合計	307事業	

(5) 指導教育

職員のスキルアップのための研修を行った。事業部として2名の実習生を迎えた。また、4名(長野大学、立教大学、東京農業大学、都留文科大学)のインターン生を受け入れた。

3. ～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター(指定管理事業)

(1) 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターの役割

自然環境に関する情報と学習の機会を提供することを通して、山梨県の良好な環境の保全と継承に貢献します。

(2) 2018年度のテーマ＝体験と学びの場

(3) 2018年度の事業実績

プログラムの開発と実践、施設内外での展示、年度テーマに即した事業の実施、自然資料収集のための調査、教材開発、地域の拠点施設としての活動、周辺の文化施設、地域にあるネットワークとの連携、自然ふれあい施設としてのハードの整備・施設維持管理、自主事業（環境教育関連書籍やグッズ販売、スノーシュー貸し出し）

(4)開館日数、入館者等の実績

表4：2018年度八ヶ岳自然ふれあいセンター開館日数・入館者数等の実績

	2018年度	2017年度	増減／昨年比
年間開館日	321	321	0/100%
入館者数	109,644	96,836	12,808/113%
開館（1994.11）以来の 総入館者数	2,215,161	2,105,517	
1日平均入館者数	341	302	39/113%
利用団体数	238	222	16/107%
団体利用者数	13,199	12,900	299/102%
プログラム回数・参加者数	1,373/17,267	1,166/16,967	207%

4. 環境省 日光国立公園 那須平成の森

(1)事業実績

①全体

第3期の2年目（1期2期を合わせ8年目）の業務実施、人材育成事業の実施、地域連携の強化、利用促進のための方策を立案し実施、提案書に明記した業務（自然教育プログラム、展示、広報・普及啓発、業務の質の維持向上）、国立公園満喫プロジェクト事業への協力および実施。

また、栃木県のデスティネーションキャンペーン（4～6月）に関連して、環境省、栃木県、那須町、JR、観光協会等に協力し各種事業を実施した。

②那須平成の森

フィールドセンター運営、プログラム開発と実施、環境教育人材育成事業の実施（宇都宮大学授業等）、屋内外の展示制作、国立公園の環境管理

(2)開館日数、入館者等の実績

表5：2018年度那須平成の森の実績

	2018年度	2017年度	増減
●那須平成の森			
年間開館日	324	322	2
入館者数	49,570	52,894	△3,324
(内、立寄り団体利用者数)	7,493	9,438	△1,945
(公募)個人利用者向け利用者負担 プログラム参加者数(※)	1,496(249回)	1,524(254回)	△28(△5)
(※)＝がっく、同特別編、自然体験・学習プログラム、植生管理(モリツグ)プログラム			
無料ミニプログラム参加者数(※)	2,572(478回)	3,165(490回)	△593(△12)

(※) =実施回数を半減する仕様となったため、回数、参加者数共に減少			
(受託)団体利用者向け利用者負担 プログラム参加者数	1,541(57 団体)	1,806(63 団体)	△265(△6)

5. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託

地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受け、次の事業を行いました。

- (1)地球温暖化の現状及び地球温暖化対策の重要性についての啓発及び広報活動
14 事業 15 日間出展、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターでの展示展開、パンフレット・教材の作成及び配布、子ども対象プログラム開催等
- (2)地球温暖化防止活動推進員及び地球温暖化対策の推進を図るための活動を行う民間団体の活動支援
やまなし環境教育ミーティングの共催、研修会 2 回実施、関東ブロック合同研修会への参画、地域協議会交流会の開催、ホームページ・通信等での広報協力等
- (3)日常生活に関する温室効果ガスの排出抑制のための措置についての照会、相談及び助言 231 件 推進員・行政関係者・県民等件対応
- (4)日常生活に関する温室効果ガス排出実態についての調査、分析
山梨県環境家計簿及び全国センターアンケートへの協力
- (5) 定期的又は時宜に応じた上記調査分析結果の提供
問合せ時等随時の情報提供
※キープ協会の施設も LED 化による CO₂ 削減を率先して行いました。

6. 環境研究所

環境教育事業部の柱の 1 つとして、事業部横断的に活動を行った。

- (1)環境保全研究
主に清泉寮やまねミュージアムが担った（詳細は 1 参照）。
- (2)環境教育研究
環境教育プログラム集の編集を進め、学会などでの発表を行った。

7. 地域との環境教育事業

- (1)地域との環境教育事業
保育事業部・研修交流事業部と協働し、「森の学童」を実施した。また、山梨県や北杜市と協働し、地域住民に対する環境教育を行い、各種ネットワークへ参画した。具体的にはフォレストアズ・スクール事業にて、北杜市内全園での環境教育プログラム、市内高等学校・小学校での授業協力、山梨県立自然ふれあいセンター及び山梨県地球温暖化防止活動推進センター事業として、やまなし環境教育ミーティングの実施、県内各種イベントでの出展事業、市民県民を対象とした各種講座等を行った。

公益Ⅱ. 酪農事業

1. 生産農場として

(1) 牛乳生産（有機 JAS 認定）

年間平均 86 頭のジャージー乳牛の飼育管理を主とした酪農業務に専念した。

そのうち 46 頭の搾乳を行い、総生産量 156,324 kg の牛乳を生産した。

その殆ど（150,334 kg）は群馬県前橋市にあるタカハシ乳業に出荷され、低温殺菌による製品化を経て KEEP 有機 JAS ジャージー牛乳として主に首都圏及び消費者団体に販売、高品質・安心・安全の牛乳として高く評価されている。

(2) 草地管理面積約 72 ha（採草地 45 ha、放牧地 25 haその他 2 ha）で飼料用牧草を栽培し、乾草、サイレージ用とした。飼料の安心安全・衛生面を改善し有機 JAS 認定の牛乳生産維持に努めた。

(3) 飼育頭数及び乳量

飼育頭数	2018 年度	2017 年度	増減
成牛	49	54	△5
育成牛	33	40	△7
哺乳牛	4	8	△4
合計	86	102	△16
内 搾乳頭数	46	47	△1
総生産量	156,324kg	161,941kg	△5,617kg

2. 教育農場として

(1) 農業体験

教育農場としての役割を果たすべく、通年を通して各種学校団体向け酪農体験、大型連休・夏休み期間には、清泉寮ファームショップ前でイベントを行った。

また、製販事業部、企画部とともに『冬のハイライド』を実施し、牛乳の PR と冬の清里の風景を多くの方に見ていただいた。（乗車人数 503 人）

(2) 実習生受け入れ

後継者育成のため、日本大学（4 名）酪農ヘルパー全国協会（3 名）

（公財）中国四国酪農大学校（1 名）学生による牧場体験実習を受け入れた。

3. 実験農場として

(1) 関係機関等との連携

山梨県の酪農経営の安定のため、山梨県畜産課、畜酪センター、山梨県西部家畜衛生所、山梨県家畜改良協会、家畜共済組合、乳量検定組合等に乳牛飼育者の立場で協力した。

また、山梨県酪農環境負荷軽減支援事業推進協議会に参加し酪農環境負荷軽減事業を

実施した。

(2) 雄仔牛等の肥育

雄仔牛、交雑種など牛乳生産には向かない牛を肥育し牛肉を生産し、製販事業部などの食材としての利用を試みました。

(3) 野菜等の栽培

大根（800本）、サツマイモ（200kg）イチゴ（300g×10箱）しいたけ等を栽培収穫して清泉寮レストラン、保育園等に食材として販売した。

(4) 家畜伝染病検査

2015年7月に発生した家畜伝染病（ヨーネ病）にともない、検査を継続的（4か月おき）におこなっている。また牛舎内の日々の消毒を行い、酪農体験プログラムご利用のお客様にも防疫対策のご協力をいただいている。

公益Ⅲ. 研修交流事業

1. 清泉寮

公益財団法人キープ協会の中核施設としての使命と役割を果たすとともに、事業の継続・発展のためにも財政健全化に寄与する運営を目指しました。

- (1) 1938年創設から80年の記念の年にあたり、清泉寮の写真展を館内およびポール・ラッシュ記念館で長期間開催したほか、12月に聖歌隊、ボサノバのコンサート、3月に対詩ライブといった記念イベントを開催し、地域の人を中心に多くの集客を図りました。
- (2) 研修利用に際して求められる設備・食事・プログラム・スタッフなど、受け入れ体制を整え、積極的な営業活動を行うことにより、学校、企業を始め、より多くの研修団体の獲得に繋がりました。下記の数値にみられるように、少子化等により団体の構成人数が少なくなっているため、人数ベースでは前年とほぼ同じですが、件数は大きく増加しました。
- (3) 地域生産者との連携を深めた上で、できる限り地元の食材の利用を図るとともに、既成の加工品をできる限り使用しない手作り料理の提供を推進したことにより、地産地消や食の安全といった観点からも顧客の大きな支持をいただくことができました。
- (4) 行政機関の協力や指導を仰ぎ、今後の事業継続に向けた施設の修繕計画を進めました。一昨年に実施した本館および大浴場の大規模な改修に続いて、築10年を迎える新館やコテージについても修繕計画を策定し、各コテージへの火報機器の設置や新館木造部分の補修など、一部実施を始めました。引き続き法令に則った安全安心な施設運営を進めると共に、利用者の利便性・快適性にも応えながら施設の稼働を向上させていきます。

(団体主要数値)

	2018年度	2017年度	増減／前年対比
宿泊団体数	223件	187件	+36件
宿泊団体利用人数	14,144人	14,143人	+1人

2. 自然学校

自然体験を重視し、団体対応利用に特化した清泉寮の兄弟施設として、財政健全化を図りつつ実験的な取り組みを行ってきました。

- (1) 通年営業の清泉寮自然学校、夏季(7月～9月)営業のキャンプ場と、2つの施設を管轄し、団体の受入を積極的に行いました。体験・食事などに関しても、効率的な運営体制を図りました。

- (2)バリアフリーの構造、地元農家と連携した、安心・安全で健康的な食事の提供、低廉な価格設定といった特長を生かし、アレルギー対応や体験内容も幼保・学校・福祉・研修といった団体の要望を出来る限り受け入れる事に力を入れ、団体営業と共に稼働の向上を図りました。
- (3)「森のようちえん」「やまもりキャンプ」といった看板企画をはじめ、食や自然をテーマとした主催キャンプの実施を行うと共に、受託から派生したグループ・団体と協働した「森整備」「味噌づくり」など、特に親子キャンプを広く展望した上でのジャンル開発の「森のかぞくキャンプ」を進めました。
- (4)公益事業として、昨年から引き続き今年度も長坂子ども食堂へ乳製品の提供と今年度は、よっちゃんばれキャンプ in 山梨 2019 を開催します。

(団体利用実績)

	2018 年度	2017 年度	増減/前年対比
宿泊団体数	201 件	175 件	+26
自然学校	163 件	150 件	+13
キャンプ場	38 件	25 件	+13
宿泊団体利用者数	14,252 人泊	12,435 人泊	+1,817 人泊

(主催企画実績)

	2018 年度	2017 年度	増減/前年対比
主催企画数	7 企画/28 回	7 企画/26 回	+2 回
参加者数	1,326 人泊	1,012 人泊	+314 人泊

3. ポール・ラッシュ記念館

公益財団法人キープ協会の根幹であるポール・ラッシュの業績を広く紹介する仕組みづくりを進めると共に、財団の広報・教育機能の一端も担い活動しました。

- (1)ポール・ラッシュ精神の継承と伝道および、業績や歴史を紹介する通常の開館業務のほか、ラッシュに関する資料のデジタルアーカイブ化作業の継続を発展的に進め、収蔵資料や美術品の保存・管理業務を行いました。同時に、国内外でのラッシュ関連の資史料の搜索、発見、収集に努めました。これらの活動は、次年度以降も継続します。
- (2) 時期ごとに変化のある企画展を年数回行うと共に、本年度の清泉寮創立 80 周年記念事業として、特別企画展の開催、清泉寮との共同展示を行いました。
- ①5~6 月は、日本におけるアメリカンフットボールのあゆみを取り上げた企画展を行いました。
- ②6 月から 3 月にかけて「清泉寮創立 80 周年記念特別展」清里編を企画展として行い、8 月から 3 月まで清泉寮で共同写真展を行いました。
- ③国際交流の一環で、フィリピンからのインターン（アーティスト）に作品を発表する場の提供し、「ソイルアート からみあった世界」展を開催しました。
- ④クリスマス時期にあわせ、県内社会福祉施設の入寮者の方々の作品を取り上げた企

画展「青い鳥成人寮」展を開催しました。

(3)博物館施設として、県・市や対外的な機関との連携や、メディアや SNS を駆使した広報活動を積極的に展開しました。

(4)教育普及プログラムの開発と実施を計画し積極的に催行しました。

- ①「聖書カフェ」(月一度開催の聖書読書会)
- ②「ロザリオつくりワークショップ」(毎日開催)
- ③「古写真を用いたフットパス」(季節開催)
- ④「ミュージアムツアー」(学校・企業団体様向け)
- ⑤「ソイルアート・ワークショップ」(企画展と連動)
- ⑥「アウトリーチ活動」(県内の学校・清里で研修をする学校団体への講義、
1月3日に東京ドームで開催された「ライスボウル」へ出張パネル展示)

(5)インターン生の受入

- ①Berea 大学(アメリカケンタッキー州)から1名。5月から7月まで。日常業務の他、展示指導や日本語教材の補助指導を行いました。
- ②コーディリエラ・グリーン・ネットワーク(フィリピン)から2名。10月から12月。国際事業部と連携。企画展、日常業務を行いました。

(開館日数・入館者数等の実績)

	2018 年度	2017 年度	増減／昨年比
年間開館日数	327 日	323 日	4 日／100%
入館者数	8,471 人	8,532 人	△61 人／99%
1 日平均入館者数	25.9 人	26.4 人	△0.5 人／98%
団体数 (小グループ含)	83 件	49 件	34 件／169%
団体入館者数	3,425 人	2,520 人	905 人／135%

公益Ⅳ. 国際交流・地域連携事業

1. 国際交流事業

「異なるものをつなぐ」「青年への希望」を軸に、国際交流を通じてキープ協会内外の地域社会・教会関係団体等、多様なコミュニティとの連携を深め、事業内容の充実と発展に取り組みました。

(1) 北杜市ケンタッキー交流事業【北杜市国際交流委員会主催】

北杜市の小中学生、大人の幅広い年齢層の国際交流事業の実施に協力しました。

① 北杜市代表団米国ケンタッキー州マディソン郡親善訪問事業

訪米 2018年5月、10日間／派遣14名

② 北杜市中学生米国ケンタッキー州マディソン郡ホームステイ受入事業

受入 2018年7～8月、9日間／受入12名

③ 米国ケンタッキー州マディソン郡代表団北杜市親善訪問事業

受入 2018年10月、8日間／受入17名

④ 日米文化交流員派遣・受入事業

a.北杜市文化交流員派遣 派遣期間 2018年5月、8日間／派遣 1名

b.マディソン郡文化交流員受入 受入期間 2018年10月、6日間／受入 1名

⑤ 子ども絵画交流

日米小学4～6年生対象、日米各20作品選出、テーマ「楽しい一日」

巡回展示 2018年5月～9月（マディソン郡内）、10月～2019年2月（北杜市内）

(2) 北杜市中学生海外交流事業（カナダ事業）【北杜市受託事業】

北杜市による中学生のカナダ派遣・交流事業の実施に協力しました。

カナダ滞在期間 2018年8月、8日間／派遣18名

(3) 国内外のインターン生の受入れ

日本・アメリカ・フランス・フィリピンの青年を受け入れ、ポール・ラッシュ博士の精神や功績の次世代への継承・普及を図りました。

① 海外インターン生（5～12月、計6名）

ベリア大学（アメリカ）／リール大（フランス）／コーデイレラ・グリーン・ネットワーク（フィリピンNGO）

② 国内インターン生（8～9月、計8名）

立教大学（経営学部・経済学部・観光学部・文学部）／長野大学／東京農業大学
／都留文科大学

(4) 主催英語プログラムの実施

海外インターン生と協働し、国際交流をキーワードに地元地域や首都圏の子どもたちへ国際理解のための英語プログラムを実施しました。

① 地域英会話プログラム（4～7月、10～12月、1～3月 週2回実施）

② 清里イングリッシュキャンプ（6月、7月、11月、12月 計6回実施）

(5) 北杜市立小学校の国際理解教育授業への協力（7月、10月）

海外インターン生と協働し、地元地域の小学校で国際理解・英語教育等のプログラム実施協力を行いました。

(6) 北杜市立甲陵高校 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業への協力

甲陵高校の設定した課題「グローバルに活躍する人材の育成」「社会との共創」をテーマに、海外インターン生と協働し、英語による環境教育プログラムを提供しました(9~10月、12月)。また環境教育事業部では日帰り授業を実施しました(4~9月)。

(7) キープ・アメリカ後援会(ACK)との協働事業

絆プロジェクト（ピース・フィールド・ジャパン主催）の受入れ（8月）：

イスラエル・パレスチナ・日本の3地域の青年を受け入れ、清泉寮での宿泊・食事、ポール・ラッシュ博士の精神や環境教育事業、保育事業を学ぶプログラムを提供しました。

(8) 北フィリピン青年育成事業への協力

コーディネータ・グリーン・ネットワーク(フィリピン NGO)の森林保全事業への協力
現地の環境教育スタッフ2名をインターン生として招聘しました（9~12月）。

また、現地森林保全事業への支援を行い、これまで支援してきた現地事業で育成・収穫された有機栽培コーヒーを買い取り、協会内で消費・販売しました（通年）。

(9) 国際交流団体・公的機関との連携（通年）

(10) ウェブサイトを通じた情報発信（通年）

2. 地域連携事業

(1) ポール・ラッシュ祭~八ヶ岳カンティフェア~2018の開催

ポール・ラッシュ精神の顕彰と草の根国際交流の実践を広くアピールし、八ヶ岳に暮らす人々と八ヶ岳を愛する人々の結びつきを強めるため、北杜市をはじめ地域団体との協力のもと、10月13日(土)・14日(日)にポール・ラッシュ祭~八ヶ岳カンティフェア~2018を開催しました。

(2) 地域連携業務

① 八ヶ岳観光圏事業や清里観光振興会等、地域の観光団体と組織連携をし、歴史・文化・観光などの側面から地域連携業務に取り組みました。

② そのほか、地域の公立学校や私立大学への支援体制作り、地域活性化のために必要な働きに取り組みました。

③ 効率的な業務遂行のため、それぞれの事業部と連携・協力しながら柔軟に業務にあたりました。

公益 V. 保育事業

キリスト教の精神に基づき「一人ひとりを祝福する保育」を保育目標に掲げ、また「森のほいくえん」のコンセプトのもと、地域の資源である豊かな自然環境を積極的に活かした保育活動を重点的に行いました。また、キープ協会の公益事業の中でも、地域社会とのつながりを深めるキーステーションとして、地域との交流事業にも積極的に取り組みました。

1. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続

「異年齢児保育」については、3・4・5 歳児を二つのグループに分け、模倣や助け合いを目的に育ち合える場作りとして行いました。0・1・2 歳児も年齢別では無く、成長に合わせて 2 グループに分けての活動を行いました。「森の保育」は一年中を通して（雨の日や雪の日も）森に出掛け、季節の恵みを感じながらその時々に合わせての活動を行いました。

2. 自然のリズムを大切にした食事(給食)の推進

自然のリズムに配慮した生産者への理解や旬の食材利用を心掛け、地域の生産者からの食材を購入しました。また、園児とは保存食や森でのクッキングを通して、作って食べることの楽しさや大切さを味わうことを多く経験することができました。アレルギー対応や月齢に合わせた食事の提供に配慮しました。

3. 保育の質の向上

「キリスト教保育」は週に一度は教会での礼拝を行い、職員が礼拝での聖話を子どもたちにするために、司祭との勉強の時間を持ち、祈る事の大切さを学びました。「森の保育」「野外におけるリスクマネジメント」は園内研修として、フィールドでの研修を含め、11 回の研修を行いました。また、外部研修にも参加することができました。

4. 園舎内及び周辺環境整備

職員や保護者、また地域の方々と環境整備の日を設け、定期的に環境整備を行いました。また、専門家に作業を依頼し、「森庭」の整備に取り組みました。

5. 保護者や地域の方々との協働

保護者の協力のもと、「森の楽童」は年に 7 回行い、「水曜文庫」（「文庫活動」）は月に 2 回行いました。

6. 卒園児のバックアップ

「卒園児キャンプ」は年 3 回行い、その都度卒園児が保育園で交流を深めました。

7. 自然学校及び環境教育事業部との協働

「森の楽童」の実施については自然学校や環境事業部のレンジャーと協働して取り組みました。自然学校とは、フィールドを共用して行いました。

8. 視察・研修の受け入れ

年間で 26 団体・約 470 人の視察・見学を受け入れました。

収益 I. 製販事業

キープ協会の経済的基盤を支えるため、様々な事業を行い収益の確保に取り組みました。

1. 収支動向

(金額：千円)

収入部門	2018 年度	2017 年度	前年比
売店	316,955	278,693	113.7%
ソフトクリーム	157,304	155,331	101.3%
飲食	78,465	67,636	116.0%
合計	552,734	501,660	110.2%

収入に関しては、売店部門および飲食部門が大きく前年を上回りました。7月の清泉寮ジャージーハット建て替えが好影響をもたらしました。ただし、ソフト部門の伸びは小さく、周辺地域の入込みの増減はあまりないものと考えられます。最終的には前年比 110.2% (予算比 97.6%) でした。

支出に関しては、原価管理および経費の管理強化により、前年比 108.9% (予算比 98.7%) でした。

2. 重点業務

2018 年度における重点業務を以下の通り実施しました。

- 清泉寮ジャージーハット建て替えによる店舗機能の強化
- 清泉寮ジャージーハットにおけるお客様の利便性の向上
- 清泉寮ジャージーハットを中心としたお客様の滞在時間延長
- 接客・サービスの質を高める職員研修

3. 通常業務

継続的に実施した通常業務は以下の通りです。(重複する重点業務を含む)。

- 清泉寮ギフトショップ・清泉寮ジャージーハット・清泉寮パン工房・清泉寮ファームショップ・清泉寮セレクトショップ・清泉寮新館売店の計 6 店舗を運営
- ジャージー牛乳から 生クリーム・バター・ヨーグルトを自家製造
- 無添加ソーセージを自家製造
- 天然酵母によるこだわりのパンを自家製造
- 地元産および県内産の果実を使ったジャムを自家製造
- ジャージー牛乳の消費促進および高付加価値化を図った商品展開およびメニュー

展開

- 付加価値を高めたオリジナル雑貨商品の製作
- 各店舗コンセプトの明確化による 複数店舗利用促進
- 各種インフォメーションの充実による 複数店舗利用促進
- 各種媒体およびメディアを活用した広報宣伝
- 飲食部門に於いては「人と地球の健康」をキーワードとした 食の安全と環境への配慮を強く意識したメニューを展開
- キープ農場産の牛肉を使用したメニューを展開
- 自家製乳製品を多用したメニューを展開
- 物産展および催事等への出張販売（別表参照）
- ギフト需要に対応した 自社通販および百貨店等の産直販売
- 独自のルートによる 海外製品の直輸入
- 顧客満足度を高める 接客・サービスの向上
- 子供向け設備・サービスの充実
- 景観に配慮した各店舗周辺的环境整備
- ガーデン管理および環境美化による 癒しの空間を提供
- 各店舗間の横断的なシフトによる効率化で人件費増加を抑制
- 収入に応じた支出管理の徹底
- POSシステムと購買の一元化による徹底した仕入・在庫管理

4. 出張販売

場所	事業名	期日
檀原 近鉄百貨店	全国ご当地うまいものまつり	5/16～5/22
甲府 イトーヨーカドー 甲府昭和店	出張販売	5/18～5/27
稲城 くろがねや稲城押立店	出張販売	6/2～6/24
長坂 スポーツ公園	北杜ふるさとまつり	8/5
茅ヶ崎 イオン茅ヶ崎中央店	出張販売	8/30～9/4
茅ヶ崎 イオン茅ヶ崎中央店	出張販売	9/28～10/2
川崎 日本食肉流通センター	ちくさんフードフェア	10/6～10/7
船橋 東武百貨店	にっぽんの味	10/18 ～ 10/24
羽村 富士見公園	羽村市産業祭	11/3～11/4
池袋 東武百貨店	IKEBUKURO パン祭	11/14 ～ 11/20
稲城 くろがねや稲城押立店	出張販売	11/10～12/9
新宿 京王百貨店	元祖有名駅弁と全国うまいもの大会	1/9～1/22
池袋 東武百貨店	IKEBUKURO パン祭	3/20～3/26

出張販売件数	ソフトクリーム売上	物販売上	合計（税別）
13 件	17,185 千円	1,662 千円	18,847 千円
前年 13 件	18,254 千円	1,750 千円	20,004 千円
前年比	△1,069 千円／94.1%	△88 千円／95.0%	△1,157 千円／94.2%

収益Ⅱ．ホテル事業

1. 清泉寮

研修宿泊施設としての役割を果たすと共に、一般のお客様の宿泊や食事、パーティーやブライダルなどの受け入れについても積極的に行いました。

- (1)宿泊予約 AGT との提携により、客室稼働に応じた多様なプラン設定を行い、宿泊売上の増加を図りました。
- (2)地域の学校や企業、団体への利用に向けての営業を強化し、入社式などのイベントや、忘年会、食事会、謝恩会などの獲得に繋がりました。
- (3)レノックス礼拝堂や黙想館といった清泉寮の特徴を生かしたブライダルの獲得を推進し、同時に衣装や着付、装花など関連分野のコーディネートも行ったことにより、売上の増加を図りました。
- (4)清泉寮 80 周年という節目の年を迎えたことを活かした HP のリニューアルや地域への紙媒体への広告、インターネットや SNS を活かした効果的な情報発信を継続することで、清泉寮の利用拡大はもとより、財団の他施設や商品・サービスの利用促進や財団の理念の周知による支援者の獲得に繋がりました。

本部(管理部門)

企画

1. 企画関連業務

(1) 法人の各事業部に関する運営等の計画策定・管理

各部のイベント・季節の装飾等を計画し、運用管理しました。

また、夏・冬ギフトセット販売強化のワークグループ事務局として活動しました。

2. 広報業務

(1) マスコミや各種メディアへの積極的な発信

TV・新聞各社へのプレスリリース、WEB ニュース配信サービスや観光情報ポータルサイト等への情報発信、キープ協会 WEB サイトの積極的な更新と SNS での情報発信等を行いました。

また、雑誌掲載や TV 番組取材等の対応を行いました。

<対応実績>

カテゴリ	件数
大手観光情報誌(るるぶ、まっぷるなど)	22
その他情報誌(ローカル誌、フリーペーパーなど)	33
情報 WEB サイト、アプリなど	17
新聞(一般、県内紙など)	21
TV 番組(在京キー局)	10
TV 番組(ローカル)	13
BS・CS、ケーブル TV 番組	2
ラジオ番組	3
商材撮影(カタログ、ミュージックビデオなど)	4
広告出稿	8

(2) キープ協会内の案内ツール・標識等のサインの整備

各月のイベント情報や施設案内パンフレット等の印刷物の作成と発行、各部署が作成する印刷物の管理等を行いました。

また、新ジャージーハット周辺の誘導サインやキープ協会全体の施設名サインを作成しました。

3. 募金の管理業務

(1) Friends of KEEP 会員組織活動

① 会報「清泉寮通信」の作成と発信

a. 清泉寮通信と年度収支報告書を4月に配信しました。

b. 2017年度キープ協会維持会員の芳名パネルを作成して、清泉寮本館案内所前に掲出しました。

<会員実績>

・キープ協会維持会員(個人)・・・292名(前年対比+8名)

- ・キープ協会維持会員(法人)・・・19社(前年対比+2社)
- ・清泉寮クラブ会員・・・576名(前年対比+69名)

②メールマガジンの作成と発信

清泉寮通信に、宿泊優待サービスを掲載し会員宛にご案内しました。

(2)顧客名簿の管理等

Friends of KEEPの会員向けに清泉寮通信を送付するのに合わせて各事業部で管理している顧客等の個人情報を利用し約3,000名に対して清泉寮通信を郵送しました。

総務

1. 職員教育訓練業務

(1)業務への取り組み意欲と資質の向上を図るため、各種研修情報を発信し教育訓練を拡充しました。

①外部研修

接客等専門知識の吸収、教養と識見の向上を図りました。

(2)キープ協会の設立運営理念や歴史的経緯の理解のための研修の実施

①新入職員・若手職員対象フレッシュマン研修

キープ協会の歴史的背景の習得、体験を通して理解を深める内容で実施しました。